

4-1-6-3 心臓血管外科

1. 概要、特色

1.1 概要

主に先天性心疾患の外科治療を行っている。心疾患の外科治療は、人工心肺（体外循環）を必要とする開心術と、人工心肺を使用しない非開心術がある。純粋に後天的な心疾患の外科治療は原則として行っていない。

1.2 特色

成育医療の考え方から、対象となる症例は胎児診断のついている新生児症例から、先天性心疾患に対する治療を小児期から受けていて、成人期に入っても継続的に治療を必要とするキャリアオーバー症例のうち、特に原疾患の遺残症、続発症に対する外科治療が必要となる症例までが含まれてくる。前者では胎児診断、周産期管理、新生児期管理、手術、術後管理を一連の流れとして行えるようなチーム医療が望まれる。後者では従来の小児対象の病院ではカバーしきれなかった症例が対象となるため、成人の合併症に対する対策を含めた全身的管理など、より幅広い集学的医療が必要となり、外科的手技を含めて診療チームのレベル向上を目指すことが求められていると考える。こうした環境の整備には現在のシステムで何が欠けているかを検討し、それを補う努力を続けている。

2. 診療活動

2.1 入院診療

入院診療の中心は外科治療（手術）である。

手術日は火曜、木曜を大まかな定時手術日とし、人工心肺（体外循環）が必要な開心術と、人工心肺を使用しない非開心術とをバランスをとりながら行っている。1日に2例までの症例であれば、定時の枠内で可能である。緊急手術に関しては曜日を問わず、随時対応が可能である。外来診療は完全予約制であるが、心臓血管外科は手術を優先し、外来診療に関してはほぼ同じスケジュールで行っている循環器科と協力体制の下にある。

術後のICU滞在中の管理は、集中治療科の担当となるが、患者さんの状態に関しては常に緊密な連絡を取りながら、協力して行っている。

2.2 手術症例概要（2006.4.～2007.3.）

2.2.1 開心術

手術総数 49 例

手術時年齢：25 日～22 才

内容：心室中隔欠損閉鎖 12 例、ファロー四徴症（両大血管右室起始、肺動脈閉鎖を含む）根治 6 例、心房中隔欠損閉 10 例、グレン吻合 4 例、右室流出路再建術 3 例、フォンタン型手術 2 例、Jatene 手術 2 例、部分肺静脈灌流異常手術 2 例、肺静脈狭窄解除 1 例、心房間交通作成 1 例、三心房心手術 1 例、ラステリー手術 1 例、その他 2 例

2.2.2 非開心術

手術総数 45 例

手術時年齢：12 日～45 才

内容：体肺動脈短絡手術 9 例、大動脈縮窄症手術 4 例、肺動脈絞扼術 4 例、動脈管閉鎖術 4 例、ペースメーカー関連手術 22 例、血管輪解除術 1 例、その他 1 例

2.3 外来診療

外来は毎週月曜、水曜、金曜の午後に診療を行っている。それぞれ常勤の医師 2 名で、医師別の枠を設けている。診察予約可能枠数はすべて合わせると、月曜、水曜、金曜でそれぞれ 24 名、24 名、8 名である。このうち原則として毎月第 3 金曜（休日等で診療ができない場合は翌週の金曜）

は特殊外来としてペースメーカー外来にあてている。循環器科外来と時間枠、診察室を近接させ、診療面での柔軟性を高めるよう努めている。

3. 施設認定

3.1 日本胸部外科学会指定施設

当施設は、日本胸部外科学会の学会認定医、学会指導医の申請に必要な修練が可能な施設としての認定を受けている。

3.2 心臓血管外科専門医認定機構認定基幹施設

当施設は、日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会の3学会で構成される心臓血管外科専門医認定機構により認定修練基幹施設の認定を受けている。このため心臓血管外科専門医の認定申請に必要な修練を、一定のカリキュラムの下に行えるようになっている。ただし、心臓血管外科専門医申請に際しては、日本外科学会認定医、あるいは外科専門医または外科専門医筆記試験合格者であること、卒後修練期間7年以上を有することなどの資格が必要である。